

## 妊娠・出産・育児に関する情報

### 赤ちゃんとの暮らし

赤ちゃんの毎日によりそえるのは、「親」になったことで味わえる何よりの幸せです。新しい命の誕生をよろこび、慈しみ、日々を楽しみながら赤ちゃんとの暮らしを営んでいきたいものですね。

### 困ったことがあれば積極的に相談を

ライフスタイルや社会環境の変化の中で、子育てを「夫婦だけ」「家族だけ」でしていくのは大変むずかしくなっています。このため、各自治体は、子育て世代を親身に支える仕組みの充実に努めています。困ったときや悩んだときは市町村の保健センター、保健所、子育て世代包括支援センターなどに相談してみましょう。

引用文献：「母子健康手帳 副読本」 公益財団法人 母子衛生研究会



### ○福島県内の相談窓口

ふくしまの赤ちゃん電話健康相談（無料）  
☎0120-80-2051 平日9時30分～16時30分  
（一般社団法人福島県助産師会）

女性のミカタ健康サポートコール  
ホームページ  
（福島県内の保健福祉事務所）



福島県子ども救急電話相談 ☎局番なし#8000  
毎日午後7時～翌朝8時まで

市町村子育て世代包括支援センター  
福島県ホームページ



女性のための相談支援センター ☎024-522-1010  
9時00分～21時00分（祝日・年末年始を除く）

### ○働きながら安心して 妊娠・出産を迎えるために

職場とよく話し合っ、赤ちゃんのためにも、必要な時は適切な対応を申し出ましょう。

働く女性の  
心とからだの  
応援サイト



厚生労働省ホームページ



### ○お父さんの育児休業が 取得しやすくなりました

男性の育児休業取得者の割合は、2005年度までは1%を下回ったままでしたが、2017年度は5%、2018年度は8%を超え、2022年度には17%に達しました。取得期間もやや長くなってきています。

男性の育児休業取得促進について

夫婦で取得すると、  
1歳2か月まで  
休業できます。

夫は妻の  
産後休業中に  
産後パパ育休も  
取得できます。

配偶者が  
専業主婦（夫）でも  
休業できます。



厚生労働省  
ホームページ

## 放射線等に関する情報

### ○教えて！放射線と健康のこと

放射線と健康に関する心配や疑問にわかりやすくお答えするために、福島県医師会と協力して作成したチラシです。

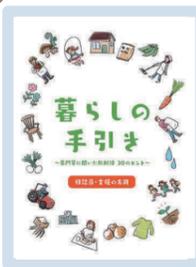


公立大学法人福島県立医科大学  
放射線医学県民健康管理センター  
ホームページ



### ○暮らしの手引き・ 暮らしの手引き+（プラス）

生活関連の放射線に関する疑問などをわかりやすくまとめた手引きです。



環境省ホームページ



### ○放射線による健康影響に関する ポータルサイト

放射線による健康影響に関する情報を一元に整理したポータルサイトです。



環境省ホームページ



### ○Fukushima Updates （復興状況）

風評の払拭に向けての歩みを紹介しています。



復興庁ホームページ



## 福島県のお母さん、お父さんへ ～「県民健康調査」妊産婦に関する調査の結果について～

（調査期間：平成23～令和4年度）

福島県と福島県立医科大学では、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故以降の福島県の妊産婦の皆さまのこころやからだの健康状態を把握し、不安の軽減や必要なケアを提供することを目的に、「県民健康調査」妊産婦に関する調査を平成23年度より実施してきました。調査開始から13年間で、延べ9万人のお母さんから回答をいただき、1万2千人を超える方々をサポートしました。

これまでの調査結果からわかったことをリーフレットにまとめました。福島県内のお母さん、お父さんたちが安心して出産・子育てができるように、このリーフレットが少しでもお役に立てることを願っています。



### 調査の概要

調査は、妊娠届け出の約1年後に実施する「本調査」と、出産から4年後と8年後に実施する「フォローアップ調査」から構成されています。



本調査



フォローアップ  
調査1回目  
（出産4年後）



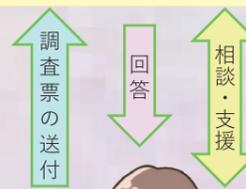
フォローアップ  
調査2回目  
（出産8年後）

### 本調査

平成23～令和2年度に福島県で妊娠・出産をした方に実施

### フォローアップ調査

平成23～26年度の本調査に回答された方に平成27～令和4年度まで実施



ご回答いただいた内容から、支援が必要と思われる方には、助産師・保健師・看護師などからご連絡し、相談・支援を行いました。  
また専用ダイヤルやメールによる相談も受け付けました。

### 妊娠・出産・育児の相談や調査に関するお問い合わせ

電話やメールを通して不安や悩みごとのご相談を受け付けています。助産師・保健師・看護師・公認心理師などが対応します。また、調査に関する問い合わせも受け付けています。以下の問い合わせ先までご連絡ください。



公立大学法人 福島県立医科大学  
放射線医学県民健康管理センター



妊産婦調査専用ダイヤル  
024-549-5180  
受付時間：9:00～17:00（土日・祝日を除く）



妊産婦調査専用メール  
nimpu@fmu.ac.jp

妊産婦に関する調査について、詳しくはホームページをご覧ください。  
<https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/>

福島 妊産婦調査

検索



当センターのX（旧Twitter）アカウント（@FMU\_FHMS）を開設しました。県民健康調査から得られた知見や健康増進につながる情報等を発信しています。

[https://twitter.com/FMU\\_FHMS](https://twitter.com/FMU_FHMS)



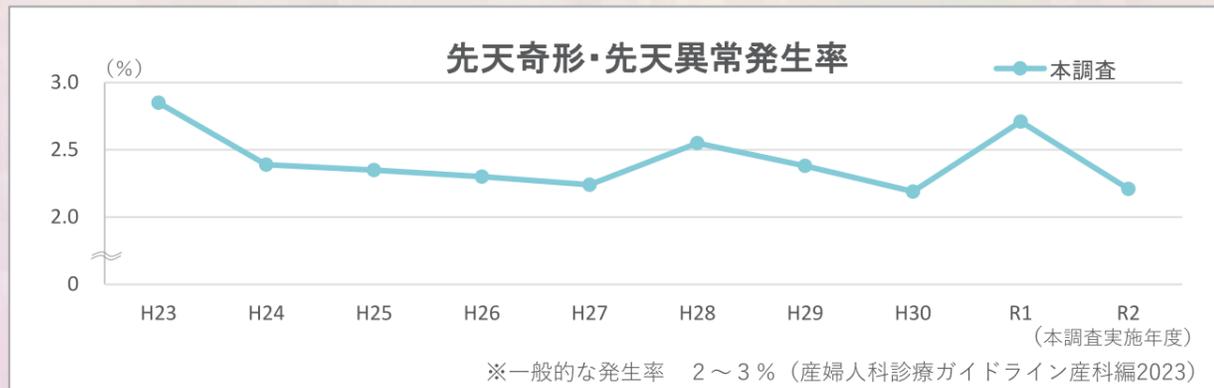
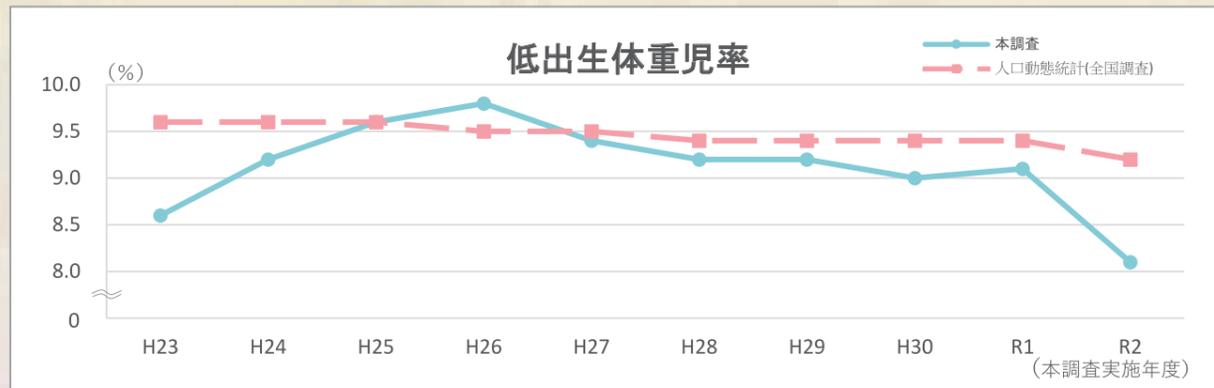
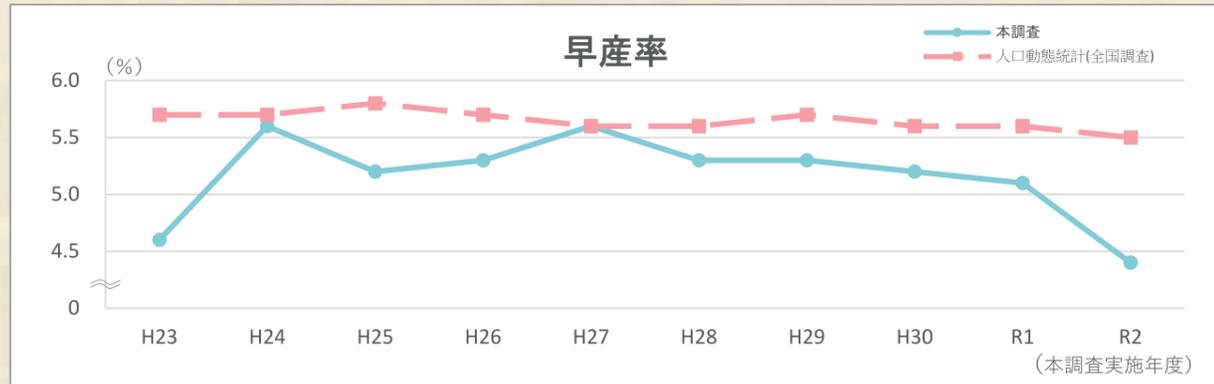
公立大学法人 福島県立医科大学  
放射線医学県民健康管理センター

令和6年9月発行

# 「妊産婦に関する調査」からわかったことをお伝えします

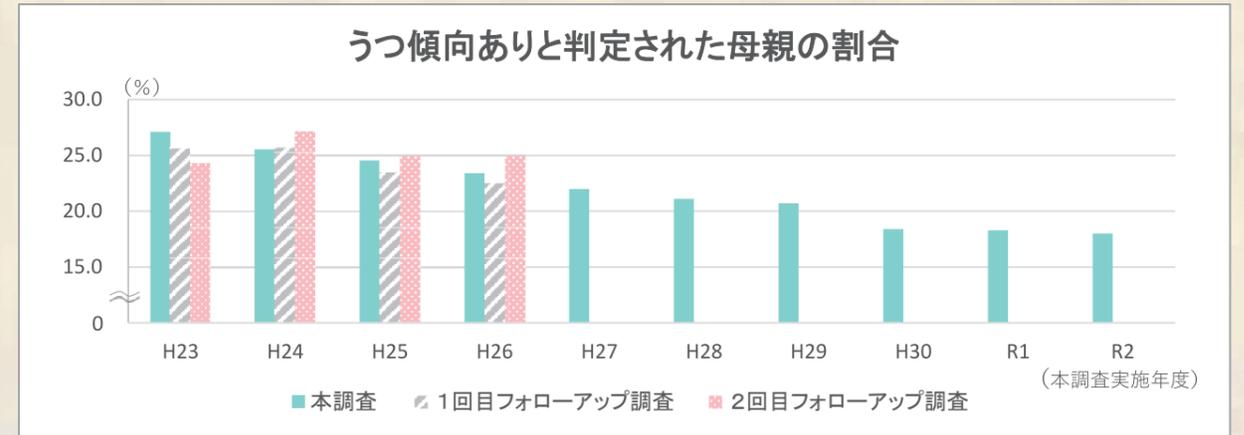
## 妊娠結果について（本調査）

平成23～令和2年度の早産率、低出生体重児率、先天奇形・先天異常発生率は、調査方法が異なり単純な比較はできませんが、全国調査や一般的に報告されているデータと変わりありませんでした。令和2年度調査の値は、早産率4.4%、低出生体重児率8.1%、先天奇形・先天異常発生率2.21%でした。



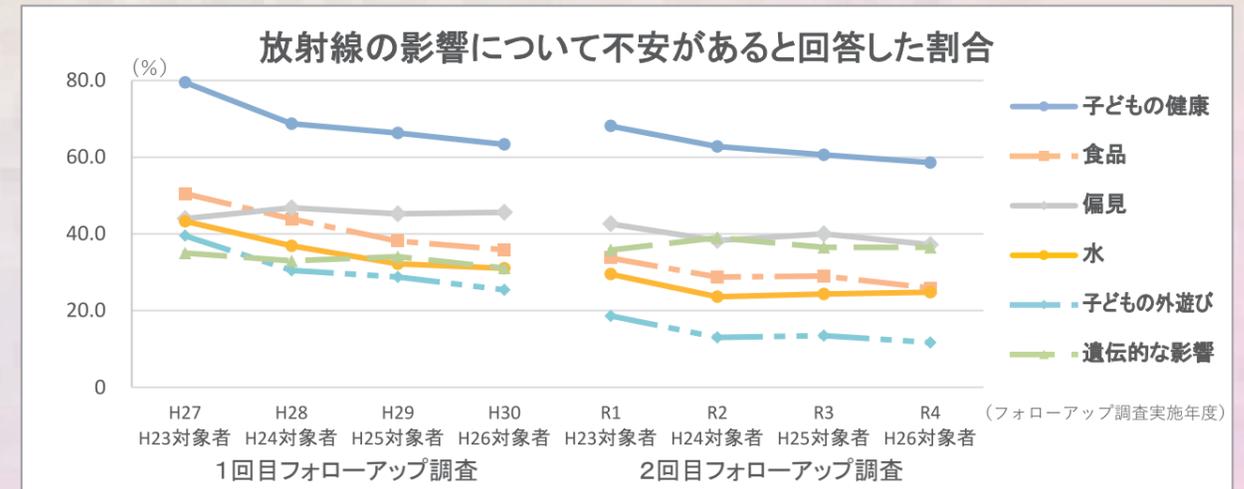
## 母親のメンタルヘルスについて（本調査及びフォローアップ調査）

本調査の結果、うつ傾向ありと判定された母親の割合は年々改善しています。令和2年度本調査でうつ傾向ありと判断された割合（18.0%）を、全国で使用しているエジンバラ産後うつ病質問票による評価に換算した割合は10.0%であり、全国の産後うつ病疑いの割合は平成29年度が9.8%であることから、同程度となっています。2回目フォローアップ調査での割合はコロナの影響を受けて増加している可能性があります。



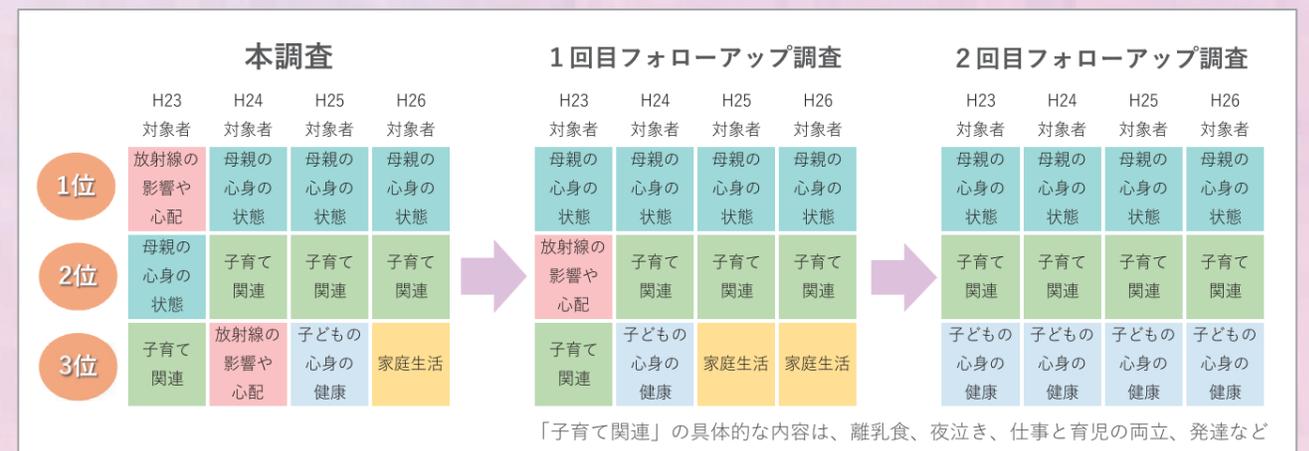
## 放射線の影響について不安なこと（フォローアップ調査）

「偏見」「遺伝的な影響」は横ばい傾向ですが、「子どもの健康」「食品」「水」「子どもの外遊び」に不安を感じる母親は少なくなっています。



## 電話相談の内容について（本調査及びフォローアップ調査）

「放射線の影響や心配」に関する相談が少なくなり、「母親の心身の状態」や「子育て関連」に関する相談が多くなっています。



### 放射線被ばく健康影響について

福島県の原発事故について、国際的な評価として国連の委員会であるUNSCEAR（アンスケア）から、2021年3月に2020年報告書が公表されました。

今回の報告書では、福島原発事故による放射線被ばくの健康影響について、将来的な健康影響や妊婦・胎児への健康影響は見られそうにないとの発表がありました。

報告書の内容をわかりやすく説明したウェブサイトもありますので、以下のリンクよりご覧ください。

復興庁 放射線の健康影響に関する情報アップデート  
<https://www.fukko-pr.reconstruction.go.jp/2018/fukushimanoima/health-effects/>



### 県民公開講座 第5回 福島で子どもを産み育てる方々へ

福島県の妊産婦さんと県内で生まれた赤ちゃんへの震災後の影響の調査結果と、産後うつの予防方法をご紹介します。



▶ YouTubeで配信中